名称　　本部事務局

　　所在地・電話　　千葉県 柏市 大津ヶ丘 3-4-1-101 電話　04-7199-7931

　　開所日数　:　　5日/週　　　　開所時間　:　 9:00 － 18:00 　(8時間/日)

職員構成

|  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- |
| 氏　名 | 職　種 | 勤務形態 | 勤務日数 |
| 【本部】 |  |  |  |
| 小池　和雅 | 事務局長 | 常勤 (兼務) | 週　5日 |
| 吉田　満 | 事務局員 | 非常勤 | 週　4日 |
| 奥山　明美 | 事務局員 | 非常勤 | 週　4日 |
| 大澤　利香 | 事務局員 | 非常勤 | 週　1日 |

本部事務局

2.　**運営指針**

新型コロナ禍で日常の生活スタイル、経済運営のあり方など、世相も大きく変わっている。激動の中、法人の在り方も問われる状況となっている。引き続きワクチン接種が実現するまで、感染を防ぐ予防に気を付ける。令和3年には法人理念の制定や2020年度以降の中期計画の実施と事業の推進を計る。・グループホームの夜勤体制の整備を行うこと、・顧問の吉澤社労士の助言を得て、諸規定の見直し整備をすること、・日中系・居住系の事業所の運営の再構築を行うこと、・法人理念の制定に基づき、法人のこれからの目標と基盤を築き上げることが必要である。

令和2年は黒字体質基盤の確立を目標に、コロナ禍のなかにあって黒字の予側ができた。そして令和3年の予算案も黒字の見込みを立てることができたので、これを確実なものとする。

精神保健及び精神障害者福祉に関する法律並びに障害者総合支援法の理念に基づき、令和3年度の事業方針は、昨年度を踏まえて下記の通り、事業方針に基づき重点目標とそのための実行計画を実現化する。

**☆　令和3年度事業方針**

（１）アンケート結果を参考に、利用者のニーズ・期待に応えるとともに、職員の意識の向上とスキルアップを目指す。

（２）地域社会の障害者福祉に貢献するとともに、法人よつばの働きを柏市と隣接市に知って頂くことを目指す。

（３）法人運営体制の安定的な確立と発展を目指すことで、職員の処遇の改善や利用者の方たちへの福祉サービスの充実を目指す。

3.　**重点目標**

 (1) 新規利用者の確保のための様々な宣伝活動の実施。

（2）利用者の社会生活への基盤作りの拠点として、また利用者の居場所としての事業所づくり。

 (3) 近隣行政機関（柏市・隣接市）・地域住民（商店会）・地元企業・他法人・諸家族会との連　　　　携を図る。

（4）法人全体での収益の黒字(予算の5％程度)を目指し、障害者の方のための事業を展開する。

4. **重点目標達成のための実際上の取り組み例**

　　 ・ 地域社会への障害理解や差別・偏見をなくすための啓発講演会等の主催(年2回)

　　 ・ パンフレット・ホームページの活用(法人理念決定後に、パンフもホームページも更新)

・ 講演会や外部イベントなどは関係機関との連携を作る

* 機関紙(よつばたより)の継続的発行と、宣伝のために活用して増刷する

　　 ・常勤・非常勤職員向けの内部研修と外部研修への参加を促す

　　 ・職員が自宅で学べる「よつば　ライブラリー」のさらなる充実と宣伝紹介

　　 ・コロナ感染リスクが減少後に、各事業内の利用者交流とイベントを実施することで、人間関係の親密さを築く

5.**中期計画(2020-22年度)の評価と新年度の計画**

①2020年度は、法人全体の収益は確保できたものの、授産会計の部分は赤字会計であった。最終的な決算報告は6月になるが、見込みとして　　　万円ほどの赤字となる見込みである。外部イベントの中止や自主製品の販売が出来なかったこと、内職や外部での作業の減少などが影響した。新年度も上半期はイベントなどが出来ない状況が続くものの、下半期は徐々にイベントも再開され、自粛も緩和されていくことで授産会計も改善されると推測する。

　②計画通りに、沼南荘と北柏を統合し、逆井に1Kタイプのグループホームを増設したことで、収支状況は改善した。非常勤職員の方への時給アップを予定通り下半期に実施した。また、処遇改善金が一部の事業で実施できていなかった点も改善した。

　③ただ、予定を実現できなかった部分がある。相談支援事業を「特定事業Ⅲ型」にすること、また、地域社会への啓発講演会が新型コロナ感染リスクのため、実施できなかった。ただこの点は、ワクチン接種の進捗状況を見ながら、夏以降に第1回目の講演会を開きたい。すでにテーマと講師は予定している。

④外部研修は同じくオンラインでの研修となったが、新年度は非常勤職員も含めて、外部研修の機会を提供し、オンラインや対面での講習でも受けてもらいたいと願っている。事務局が魅力的なテーマの情報を集め、各事業に案内する。今年の初めから開設した、「よつばライブラリー」は、自宅で誰もが学べる機会として、これから毎月数冊ずつ推薦図書とし、充実を図る。

⑤新年度の計画として、老朽化しているグループホーム建物の移動や、希望者があればサテライト型の増設も視野に入れる。また、「生活介護」の事業の新設について、検討を進める。法人よつばの事業として、利用者・入居者の方たちの受け皿として必要だと感じている。検討委員会を設置する。

⑥法人財政が適切な収益を残すことを前提に、管理者手当やサビ管手当や資格手当の増額を予定する。同規模の他法人を参考に、段階的に改善を行いたい。

　中期計画通りにはいかない面もあるが、法人として利用者の方のためにも、働く職員のためにも、そして社会福祉法人としての使命を果たすために、「法人よつばの理念」に根差して目標を着実に実現していきたい。